

## 第 14 回：造詣を深める環境

会長 田中 仙堂

「造詣が深い」といった場合の「造」は、「ある所まで届く」の意味、「詣」も、「高い所まで行き着く」の意味があります。そこから、「造詣」だけでも、学問や技芸が高い水準に達しているという意味になります。

また、「造詣が深い」といった時には、一般的には他人に対する評価の言葉として使われます。他人の学問や技芸が高い水準に達していることを素晴らしいと認める行為が、その分野での人々の研鑽を促しているのではないのでしょうか。

茶席での見事な応対をみせる亭主や正客に対する周囲の賞賛や畏敬のまなざしが、茶道の造詣を深めさせる働きをしてきたのではないかと思います。つまり、環境とは、その人の周りを取り囲む人々が持っている意識も含まれているのです。茶道文化に対して、もっと知識を増やしていこう、技を高めていこう、という気持ちをもった人々が集まっていることが、「造詣を深める環境」になると考えてみてください。

自分の足りないところを補う努力は、自分だけの意志によって継続することができます。自分の好きな分野で、自らの伸び代を見つけていくことが一番だというメッセージを若い世代に贈りつづけることは、茶道にかぎらず大切なことではないのでしょうか。

造詣を深める環境としては、失われつつある茶室空間を維持するなどの物理的な環境の整備が重要なのは、いうまでもありません。それに加えて、これから造詣を深めようとしている人たちを、励まし、勇気づけることも大切だと考えます。

平成 27 年 8 月発行 会報「えんじゅ 84 号」掲載